

古文 活用・係り結びこれだけ100

解答・決め手

答えより、**決め手の一行**を覚えてください。

丸つけのしかた 答えが合っていても、決め手が言えなければ×にしてください。

- ① 動詞の種類を決める 四段・上二段・下二段・上一段・下一段・カ変・サ変・ナ変・ラ変。まず9種類のどれか。
- ② 活用形を音で決める 四段ならア段＝未然、イ段＝連用、エ段＝已然。音で即決できます。
- ③ 係助詞があれば結びを探す ゑ・なむ・や・か → 連体形、こそ → 已然形。文末が変わります。

動詞の活用

活用の種類と活用形を答えよ。

1	あらず。	ラ変「あり」未然形「あら」	「あら」のa段+「ず」。
2	来らむ。	カ変「来」終止形「く」	「来（く）」終止形+「らむ」（終止形接続）。
3	思はれけり。	四段「思ふ」未然形「思は」	a段+「れ」（受身・自発・尊敬「る」連用）+「けり」。
4	行かましかば。	四段「行く」未然形「行か」	a段+「ましかば」（反実仮想）。
5	思へども。	四段「思ふ」已然形「思へ」	e段の已然+「ども」（逆接）。
6	居たまふ。	上一段「居る（ゐる）」連用形「居（ゐ）」	上一段連用「ゐ」+「たまふ」。
7	せば…まし。	過去の助動詞「き」の未然形「せ」+ば（「せば…まし」=反実仮想の型）	「世の中にたえて桜のなかりせば」の型。サ変「す」ではなく過去「き」の未然形とするのが標準。
8	寝たりし人。	下二段「寝（ぬ）」連用形「寝（ね）」	連用「ね」+「たり」+「し」（過去連体）。
9	書かず。	四段活用「書く」未然形	「書か」のa段+「ず」→四段未然。
10	見る人。	上一段活用「見る」連体形	「見る」の連体形（語幹「み」+活用語尾「る」）。
11	起きず。	上二段活用「起く」未然形	「起き」のi段+「ず」→上二段未然。
12	受けず。	下二段活用「受く」未然形	「受け」のe段+「ず」→下二段未然。
13	死ぬ。	ナ行変格活用「死ぬ」終止形	「死ぬ」はナ変、終止形「死ぬ」。
14	あり。	ラ行変格活用「あり」終止形	「あり」はラ変、終止形「あり」。
15	来けり。	カ行変格活用「来」連用形「き」	「来（き）」連用+過去「けり」。
16	旅す。	サ行変格活用「旅す」終止形	「旅す」サ変、終止形「す」。

形容詞形容動詞

活用の種類と活用形を答えよ。

17	静かなるものから、なほ涙落つ。	ナリ活用「静かなり」連体形「静かなる」	接続助詞「ものから」（逆接）は連体形接続。「静かなる」はナリ活用の連体形。
18	あはれにもあるかな。	ナリ活用「あはれなり」連用形「あはれに」	連用形+係助詞「も」+ラ変「あり」。
19	あはれなる御容貌にて、見ゆ。	ナリ活用「あはれなり」連体形「あはれなる」	体言「御容貌」の前。
20	美しき人。	シク活用「美し」連体形「美しき」	体言「人」の前なので連体形。

21	嬉しくこそ侍りけれ。	シク活用「嬉し」連用形「嬉しく」	連用形＋「こそ」係助詞＋「侍り」連用＋過去「けり」已然「けれ」（こそ結び）。
22	静かなりつる夜。	ナリ活用「静かなり」連用形「静かなり」	連用形＋完了「つ」連体「つる」＋体言「夜」。
23	よろづのこと、よろしからず。	ク活用「よろし」カリ活用未然形「よろしから」	未然形＋打消「ず」。
24	あはれならば、訪ねまし。	ナリ活用「あはれなり」未然形「あはれなら」	未然形＋接続助詞「ば」（仮定）＋反実仮想「まし」。
25	蕩々たる川面、月浮かぶ。	タリ活用「蕩々たり」連体形「蕩々たる」	体言「川面」の前。
26	静かにこそ侍りけれ。	ナリ活用「静かなり」連用形「静かに」	連用形＋係助詞「こそ」＋「侍り」連用＋過去「けり」已然「けれ」（こそ結び）。
27	月清く。	ク活用「清し」連用形「清く」	「清し」終止形。連用形は「清く」。
28	物悲し。	シク活用「物悲し」終止形	接頭語「物」がついた一語の形容詞。基本形は「物悲し」。

活用形6種

29	恩を <u>受け</u> て、忘れず。 次の傍線部「受け」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	イ	直後が「て」。連用形（下二段「受く」連用）。
30	風に <u>散る</u> 花を惜しむ。 次の傍線部「散る」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	エ	直後が体言「花」。体言を修飾するので連体形。
31	返り事を <u>書か</u> む。 次の傍線部「書か」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	ア	直後が意志の「む」。未然形（四段「書く」未然）。
32	人は皆 <u>老ゆ</u> 。 次の傍線部「老ゆ」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	ウ	文末で言い切り。終止形（上二段「老ゆ」終止）。
33	梅は <u>咲け</u> ど、まだ寒し。 次の傍線部「咲け」の活用形は、ア～カのどれか。	オ	直後が「ど」。已然形（四段「咲く」已然）。

ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形		
34 よくよく<u>思</u>へ。 次の傍線部「思へ」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	カ	文末で命じている。命令形（四段「思ふ」命令「思へ」）。
35 男、京に<u>上</u>りけり。 次の傍線部「上り」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	イ	直後が過去「けり」。連用形（四段「上る」連用）。
36 いと<u>高</u>き山に登る。 次の傍線部「高き」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	エ	直後が体言「山」。連体形（形容詞「高し」連体「高き」）。
37 ともかくも<u>せ</u>ず。 次の傍線部「せ」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	ア	直後が打消「ず」。未然形（サ変「す」未然「せ」）。
38 昔、世になき宝<u>あ</u>り。 次の傍線部「あり」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	ウ	文末で言い切り。終止形（ラ変「あり」終止）。
39 工夫<u>す</u>れど、かなはず。 次の傍線部「すれ」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	オ	直後が「ど」。已然形（サ変「す」已然「すれ」）。
40 「とく<u>行</u>け」と、せきたつ。 次の傍線部「行け」の活用形は、ア～カのどれか。 ア 未然形 / イ 連用形 / ウ 終止形 / エ 連体形 / オ 已然形 / カ 命令形	カ	文末で命じている。命令形（四段「行く」命令）。

音便 次の傍線部はどの音便が答えよ。

41 笛をいとめでたく <u>吹</u> いて、人々めづ。	イ音便	カ行四段「吹く」の連用形「吹き」＋て→「吹いて」。
42 大水出でて、橋を <u>呑</u> んで押し流す。	撥音便	マ行四段「呑む」の連用形「呑み」＋て→「呑んで」。
43 心に深く恥ぢ <u>入</u> って、物も言はず。	促音便	ラ行四段「入る」の連用形「入り」＋て→「入って」。
44 旅の空にて、故郷を <u>思</u> うて涙ぐむ。	ウ音便	ハ行四段「思ふ」の連用形「思ひ」＋て→「思うて」。
45 いみじう <u>恐</u> ろしい夢を見たり。	形容詞のイ音便	シク活用形容詞「恐ろし」の連体形「恐ろしき」→「恐ろしい」。
46 月いと明らかにして、道 <u>白</u> う見ゆ。	形容詞のウ音便	ク活用形容詞「白し」の連用形「白く」→「白う」。
47 文を <u>したため</u> て、使ひに渡して遣はす。	音便なし	「したため」（下二段「認む」の連用形）＋て。音便は起きていない。
48 帝、いたく <u>驚</u> いて、人を召す。	イ音便	カ行四段「驚く」の連用形「驚き」＋て→「驚いて」。
49 涙に <u>む</u> せんで、言葉もつづかず。	撥音便	バ行四段「むせぶ」の連用形「むせび」＋て→「むせんで」。
50 主君の仰せを <u>承</u> って、急ぎ参る。	促音便	ラ行四段「承る」の連用形「承り」＋て→「承って」。
51 敵を <u>追</u> うて山深く入る。	ウ音便	ハ行四段「追ふ」の連用形「追ひ」＋て→「追うて」。
52 <u>白</u> い雲のたなびく。	形容詞のイ音便	ク活用形容詞「白し」の連体形「白き」→「白い」。

連体形止め

53 待つ人訪ね <u>く</u> 。 次の傍線部「く」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ウ	係助詞がなく、文末は終止形「く」（カ変「来」の終止形）。
---	---	------------------------------

54 待つ人の訪ね<u>くる</u>。 次の傍線部「くる」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	イ	係助詞がなく、文末が連体形「くる」。
55 世ぞ<u>はかなき</u>。 次の傍線部「はかなき」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ア	係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「はかなき」で結ぶ。
56 暁に鳥鳴き<u>ぬ</u>。 次の傍線部「ぬ」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ウ	係助詞がなく、文末は終止形「ぬ」（完了「ぬ」の終止形）。
57 庭の桜の散り<u>たる</u>。 次の傍線部「たる」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	イ	係助詞がなく、文末が連体形「たる」。
58 涙ぞ袖に<u>流るる</u>。 次の傍線部「流るる」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ア	係助詞「ぞ」があるので、文末は連体形「流るる」で結ぶ。
59 峰に立つ雲<u>白し</u>。 次の傍線部「白し」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ウ	係助詞がなく、文末は終止形「白し」。
60 暁の鳥の鳴き<u>ぬる</u>。 次の傍線部「ぬる」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	イ	係助詞がなく、文末が連体形「ぬる」。
61 都なむ恋しかり<u>ける</u>。 次の傍線部「ける」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ア	係助詞「なむ」があるので、文末は連体形「ける」で結ぶ。

62 西の山に月<u>隠る</u>。 次の傍線部「隠る」は、ア～ウのどれか。 ア 係り結びの連体形 / イ 余情・詠嘆の連体形止め / ウ 連体形止めではない	ウ	係助詞がなく、文末は終止形「隠る」。
---	---	--------------------

品詞分解

63 「飛び立つ」はいくつの単語か。 ア 二語 / イ 一語 / ウ 三語	イ	複合動詞で一語。「思ひ出づ」と同じ仲間。
64 「思ひけり」はいくつの単語か。 ア 三語 / イ 一語 / ウ 二語	ウ	思ひ（動詞の連用形）／けり。
65 「寒かりけり」はいくつの単語か。 ア 二語 / イ 一語 / ウ 三語	ア	寒かり（形容詞の連用形）／けり。
66 副詞の説明として正しいものを選べ。 ア 活用して文末に来る / イ 体言だけを修飾する / ウ 独立して感動を表す / エ 活用せず、主に用言を修飾する	エ	「いと」「やうやう」など。
67 「山にあり」はいくつの単語か。 ア 二語 / イ 三語 / ウ 一語	イ	山／に（場所を示す格助詞）／あり。
68 体言とは、どの品詞のことか。 ア 動詞 / イ 形容詞 / ウ 名詞 / エ 副詞	ウ	体言＝名詞。「下に体言が続けば連体形」の形でよく使う用語。
69 自立語は一つの文節にいくつあるか。 ア 必ず一つ / イ 必ず二つ / ウ 0のこともある / エ 決まっていない	ア	自立語は1文節に必ず一つ。
70 「うち泣く」の説明として正しいものを選べ。 ア 動詞＋動詞の二語 / イ 副詞＋動詞の二語 / ウ 助動詞＋動詞の二語 / エ 接頭語「うち」が付いた一語の動詞	エ	接頭語は単語として切り離さない。
71 「あらず」はいくつの単語か。 ア 一語 / イ 二語 / ウ 三語	イ	あら（ラ変「あり」の未然形）／ず。

72 「咲きにけり」はいくつの単語に分かれるか。 ア 二語 / イ 四語 / ウ 三語	ウ	咲き／に（完了「ぬ」の連用形）／けり。
73 「庭になし」はいくつの単語か。 ア 三語 / イ 二語 / ウ 四語	ア	庭／に（格助詞）／なし（形容詞）。
74 山 <u>の</u> 桜咲く。 次の傍線部「の」の品詞を選べ。 ア 助動詞 / イ 接続詞 / ウ 副詞 / エ 助詞	エ	活用しない付属語＝助詞（下の名詞を修飾する格助詞）。

係り結び 次の傍線部「なむ」を識別せよ。

75	君ならで誰に <u>か</u> 見せむ梅の花。 次の傍線部「か」を識別せよ。	係助詞「か」＋連体形「む」（反語）	紀友則。「ならで」＝「～でなくて」。
76	此の世にあるもの皆夢 <u>や</u> 。 次の傍線部「や」を識別せよ。	係助詞「や」（文末用法・疑問）	体言「夢」＋「や」の文末用法。「～であるのか」と問いかけて終わる。
77	雨、はやくやま <u>なむ</u> 。	終助詞「なむ」（願望、他者への願い）	未然形「やま」＋「なむ」＝他への願望（雨よ、早くやんでほしい）。
78	山里は冬 <u>ぞ</u> さびしさまさりける。 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。	係助詞「ぞ」＋連体形「ける」（強調）	源宗于。「冬こそが寂しさが増すのだ」。
79	君 <u>か</u> 思ふ。 次の傍線部「か」と結びを識別せよ。	係助詞「か」＋連体形「思ふ」（疑問）	「か」は直前の「君」を疑問の焦点にする。「思うのはあなたなのか」。結びは連体形「思ふ」。
80	雪降りて <u>こそ</u> いとあはれなれ。 次の傍線部「こそ」を識別せよ。	係助詞「こそ」＋已然形「あはれなれ」（強調）	「雪が降ってこそ風情がある」。
81	命 <u>やは</u> 惜しき。 次の傍線部「やは」を識別せよ。	係助詞「やは」＋連体形「惜しき」（反語）	「命など惜しいだろうか、いや惜しくない」。
82	道知れる人 <u>なむ</u> ありける。	係助詞「なむ」＋連体形「ける」（強調）	伊勢物語。「道を知る人がいたのだ」。
83	我れにいまだ知る人 <u>や</u> ある。 次の傍線部「や」を識別せよ。	係助詞「や」＋連体形「ある」（疑問）	「私を知る人はあるか」。
84	大方は月 <u>ぞ</u> をかしき。 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。	係助詞「ぞ」＋連体形「をかしき」（強調）	「だいたい月が趣あるのだ」。
85	人目も草もかれぬとおもへば、人 <u>こそ</u> 見えね。 次の傍線部「こそ」を識別せよ。	係助詞「こそ」＋已然形「ね」（強調）	文末で結ばれた「こそ～已然形」は強調。あとに文が続くときは逆接の含みが出る。
86	いざ、月見 <u>なむ</u> 。	完了「ぬ」未然＋意志「む」（係助詞ではない）	連用形「見」＋「な」＋「む」。
87	あけぼの <u>こそ</u> 。 次の傍線部「こそ」を識別せよ（結びの省略）。	係助詞「こそ」（結びの省略）	「（をかしけれ）」が省略されている。
88	いづくも同じ秋の夕暮、と <u>ぞ</u> 。 次の傍線部「ぞ」を識別せよ。	係助詞「ぞ」（結びの省略）	「とぞ」「となむ」で文が終わる＝下に「言ふ」「言ひける」を補う結びの省略。

係り結び応用 次の文で省略されている語を選べ。

89	これ、誰（た）がしわざにか。 ア 「言ふ」 / イ 「聞く」 / ウ 「あらむ」 / エ 「来」	ウ	「にか（あらむ）」の型。
90	いとめでたき花にこそ。 ア 「あらむ」 / イ 「あらめ」 / ウ 「あれど」 / エ 「ありける」	イ	「にこそ」の下に補うのは已然形「あらめ」。
91	いづくの山にや。 ア 「あらむ」 / イ 「言ふ」 / ウ 「見ゆ」 / エ 「来」	ア	「いづくの山にや（あらむ）」＝「どこの山であろうか」。
92	月の都の人にやあらむ。 ア 終止形 / イ 已然形 / ウ 未然形 / エ 連体形	エ	係助詞「や」の結びなので連体形。
93	「はや帰りたまひね。」となむ。 ア 「あらむ」 / イ 「あらめ」 / ウ 「言ひける」 / エ 「来にける」	ウ	会話の引用＋「となむ（言ひける）」。
94	いづれの山か天に <u>近き</u> 。 ア 終止形 / イ 連体形 / ウ 已然形 / エ 語幹	イ	「か」の結びなので、形容詞「近し」が連体形「近き」になっている。
95	これも前世の契りにや。 ア 「あらむ」 / イ 「ありけり」 / ウ 「あれ」 / エ 「あらず」	ア	「にや（あらむ）」の型。
96	月こそ見ゆれ。 次の文の説明として正しいものを選び。 ア 「見ゆれ」は命令形である / イ 「こそ」は疑問を表す / ウ 「見ゆれ」は連体形である / エ 「こそ」を受けて「見ゆ」が已然形「見ゆれ」で結ばれている	エ	「こそ」→已然形。動詞「見ゆ」（ヤ行下二段）の已然形が「見ゆれ」。
97	前世の報いにやあり <u>けむ</u> 。 ア 終止形 / イ 已然形 / ウ 連体形（「や」の結び） / エ 命令形	ウ	過去推量「けむ」は終止形と連体形が同形。
98	母なむ、いみじう泣きけるを、見るもいと悲し。 次の文で起きている現象を選び。 ア 正しい係り結びで完結している / イ 結びの流れ / ウ 結びの省略 / エ 逆接用法	イ	結び「ける」に「を」が付いて文が後続へ続き、係り結びが完結していない＝流れ。
99	これは、狐のしわざにこそ。	ア	「にこそ（あらめ）」の型。

次の文で起きている現象を選べ。

ア 結びの省略 / イ 結びの流れ
/ ウ 逆接用法 / エ もぞ・もこそ

100 反語の訳し方として正しいものを選べ。

ア ～してほしい / イ ～だろう
/ ウ ～しなさい / エ ～か、いや～ない

エ

反語は問いの形で強く否定する表現。